廣讃寺ジャーナル

第177号
（発行所）
真宗大谷派
松岡山 廣讃寺
中村区城屋敷町3-30
TEL(052)411-5301
FAX(052)411-5341
〈E-mail〉
matsuoka@kosanji.or.jp

今年一年何をした

元日から始まり、正月が終わったかと思うと二月、二月は日にちが短いのですぐに終わります。

すると三月で年度末です。

だいぶ暖かくなってきたねと四月を過ごすといつの間にかゴールデンウィークに突入。このころからいっきに暑くなります。

そして早めの衣替えをして六月を迎えます。カレンダーを六枚めくったことになりちょうど半分。ここからが温暖化で高温多湿の灼熱地獄の日々。

六月半ばから十月までの三ヶ月半ほど、早く涼しくなってほしいと願いつつ、ただ暑さに耐えます。

涼しくなったという心地の良い秋を短期間味わった頃に灯油売りの自動車から流れる音楽が聞こえてきます。もう年末です。

振り返れば、今年私はコレをした！というものはなく、今年私にはこのような出来事があった、という受動的なことしか思い浮かばないことに気づきました。

何かをしたという実感は薄く一年を思いっきり生きた感覚が持てません。このぶんだと来年以降もこの勢いで同じような年になるかと予想すると、このまま歳をとっていくことへの後悔が先に立ってしまいます。

磯長（しなが）の太子堂

釋　綽智

今年の六月は例年にない猛暑でしたが二十一日に東光寺さんで暁天講座がありほっとしました。帰路、親鸞聖人の旧跡磯長の寺に参ろうと思い立ち二十九日に行ってきました。

早朝、名古屋駅から近鉄で三回乗り換えて喜志に着いた。ここから循環バスで太子堂前を降りた時はお昼に近い。名古屋を出発して四時間弱もかかったことになる。暑い時期には少しきつかったです。

すぐ近くの南大門をくぐると左右に七堂伽藍が目に入る。一直線に北の方に小さな二天門までは少し上り坂になっている。他の伽藍はさっと見て二天門の奥に太子と妃に母（三骨一廟）の墓がある。前に菊の紋章の入った柵がある。簡素なお墓と思いました。ここから少し東に進むと何と見真大師堂があるのにびっくりしました。大きなお堂ではないが扉が閉まっていたので聖人の立像が見られず残念でしたが太子の御廟と近くに立地しているのに驚きました。二時間ほどで太子堂のある叡福寺をあとにして帰路につきました。これ

で親鸞聖人の旧跡をほぼ参ることができ満願となり自分を誉めてやりました。

和讃

和国の教主聖徳皇
広大恩徳謝しがたし
一心に帰命したてまつり
奉讃不退ならしめよ

共命之鳥（ぐみょうしちょう）

釋　綽智

日本でコロナ感染者数が日々発表される中、十月十三日に佐古前町の正晃寺さんで二十組のご命日のつどいがありました。廣讃寺からは二人ほどが参加し、一般の参加者は十人ほどでした。

講師は一宮の専徳寺さんの住職、祖父江志郎師でした。仏典童話集の中から切り絵を使われたりしてやさしく話されました。

特に自力の限界について語られ方が面白く、また後生の話は「共命之鳥」という阿弥陀経の中の一句を使ってわかりやすく話されました。一つの体に二匹のオームの切り絵を使って、日常生活での私たちの姿を表現され、生きる難しさを説かれました。私たち人間はみな同じと思いがちですが一人一人が全部違っているということを強調されました。

ぎすぎすしている人間関係をどのように受け止めて生きていったらいいのかを考える機会をいただきました。

報恩講円成

去る十一月三日、廣讃寺報恩講を厳修いたしました。コロナ社会になってからは寺の各行事を内勤めで極々少人数にて勤めてきました。今年に入ってからは春の彼岸、秋の彼岸とお説教師に来ていただいて勤め、今回の報恩講は法中の方に来ていただきました。午前十時からお勤めで登高座から正信偈を勤めました。十一時からは同朋大学の市野智行先生のお説教をいただきました。十時から十二時までの二時間、参詣者は三十人ほどでしたが久しぶりに少し本堂が活気づいていました。その報恩講に兼ねて、今年得度を受けた娘二人の得度奉告もさせていただきましたのでここに報告させていただきます。今後ともよろしくお願いいたします。

行事予定

十二月二十八日（水）十時　親鸞聖人命日のお勤め
　同朋会例会
十二月三十一日（土）三時　歳末勤行

昨年より大晦日の除夜の鐘は無期限で中止としました。かわりに元日の修正会の後に初鐘をおこないます。

一月　一日（祝）十時　修正会
　十時半頃　初鐘